

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第9回会議 会議録（要旨）

1 日 時

平成31年2月15日（金）19:00～20:20

2 場 所

函館市医師会病院 5階講堂

3 出欠状況

メンバー：寺田部会長，水越副部会長，川村メンバー，川口メンバー，岩坂メンバー，
船山メンバー，山本メンバー，益井メンバー，京谷メンバー，齋藤メンバー
部会運営担当：（函館市医療・介護連携支援センター）佐藤，柳谷，長谷川，鎌田
事務局：（函館市地域包括ケア推進課医療・介護連携担当）栗田主事

4 議 事

○報告事項

- (1) 平成30年度 多職種連携研修計画 実施報告
- (2) センターホームページ「コラム」の掲載について

○協議事項

- (1) 研修情報一元化と提供について
- (2) 平成31年度 多職種連携研修計画（案）について

5 会議の内容

栗田医療・介護連携担当

ただ今から、函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第9回会議を開催いたします。前回の会議でも確認いたしておりますが、この会議は原則公開により行いますので、ご了承願います。次に、第8回の会議録についてですが、事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただきました。事務局の方には、特に修正のご意見がございませんでしたので、原案どおりで、第8回会議録を確定させていただき、市のホームページ上で公開させていただきます。本日は、公益社団法人北海道看護協会道南南支部の中村様と函館市居宅介護支援事業所連絡協議会の渡部様が所用により欠席となっております。また、一般社団法人 函館歯科医師会の岩井様が所用により欠席となっておりますが、代理で川村曜補様に、北海道医療ソーシャルワーカー協会の酒本様も所用により欠席となっておりますが、こちらも代理で岩坂亜里沙様にご出席いただいております。それでは、本日の資料を確認させていただきます。事前に会議次第1枚，資料1から9まで全部で裏表の印刷含め合計10枚を送付しておりますが、本日お持ちでない方はいらっしゃいますか。なお、資料3の追加資

料として、裏表印刷のものが3枚、机上に配布しております。また、あらかじめ机上に座席表と出席者名簿を配布させていただいております。本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。寺田部会長、お願いします。

寺田部会長

それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。報告事項（1）「平成30年度多職種連携研修計画実施報告」に関して、佐藤幹事から説明願います。

佐藤幹事

皆様、こんばんは。幹事の佐藤でございます。資料1、報告事項の（1）「平成30年度多職種連携研修計画実施報告」につきまして、ご報告いたします。資料1をご覧ください。アの医療関係者向け研修会ですが、「介護保険の概要～退院を見据えた展開～」というテーマのもと包括支援センターゆのかわの京谷佳子様にご講師をお願いし、5月中央病院、8月市立函館病院で実施し、参加者は記載のとおりとなっております。最終回となります2月は21日医師会病院での開催予定となっております。本日まで68人の参加申し込みをいただいております。京谷様には、前年度から合計5回の研修会で講師となっていただいておりますが、毎回参加者の方々から、「わかりやすかった」「ききやすかった」と好評の声が上がっております。改めまして、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、イの介護関係者向け研修会ですが、「病院の機能と役割について知ろう」というテーマのもと、国立病院の医療ソーシャルワーカーの廣瀬量平様に講師をお願いし、5月は居宅サービス系、8月は施設・居住系事業所の職員様を対象に実施致しました。参加人数は記載のとおりです。最終回となります2月は19日に開催予定となっております。サービス付き高齢者向け住宅と住宅型有料老人ホーム職員様の他、1回目、2回目の研修会に参加できなかった居宅系・施設居住系事業所の職員様へも案内を発送しております。本日までに、参加申し込み人数は117人となっております。廣瀬様にも昨年度から合計5回の研修会で講師となっていただいておりますが、毎回参加者の方々から「勉強になった」「知れたかったことが聞けて解決できた」等と普段の業務に活かせる内容であったとこちらも好評の声をいただいております。

ウのオープンカンファレンスですが、前回の部会でもご報告いたしましたが、4月国立病院、6月五稜郭病院、8月市立函館病院とそれぞれ開催病院の担当者の方と協働して開催いたしました。参加者は記載のとおりです。今年度の開催は以上となりますが、来年度も引き続き川口先生を中心に開催病院と協働しながら定期的の実施していく予定となっております。

エの第4回函館市医療・介護連携多職種研修会、大規模研修会のご報告を致します。今年度は10月20日土曜日、国際ホテルで「地域での看取りを知る～その現状とこれから～」というテーマで実施致しました。参加人数306名と過去4回開催のうち最高人数の参加者となっております。内訳としましては、グループワーク席は196名の参加、聴講席は110名の参加となっております。研修会は、川口篤也先生の座長のもと、施設医の老松寛先生、在宅医の岡田晋吾先生、病院医の福德雅章先生がそれぞれの場所での看取りについてご講演

くださり、大変貴重なシンポジウムとなりました。また、それぞれの場所での看取りの現状について多職種によるグループワークと、シンポジストの先生方と会場の参加者との意見交換等もあり函館市の看取りの現状について理解を深めることができる機会になったと感じております。研修会終了後のアンケートの集計結果は資料3をご確認ください。「実際の看取りに携わっている医師の話を聞いて勉強になった」「看取りについて考えるきっかけとなった」等の意見をいただいております。

続きまして、資料1のオですが『はこだて入退院支援連携ガイド』を活用した研修会として、退院支援分科会が主催となりガイドの活用促進の研修会を開催いたしました。11月14日、主に入退院支援の場面で中心的な役割を持つケアマネジャー、包括支援センターの職員、訪問看護師、退院支援看護師、医療ソーシャルワーカーの5職種40名が参加し事例をもとにガイドを活用し適切な連携のあり方を考えるグループワークを実施いたしました。今回の研修会は、分科会の中でも試験的な研修会の実施という事で、今回の内容を踏まえて来年度以降も参加者の拡大や内容を検討しながら進めていく予定です。報告事項(1)「平成30年度多職種連携研修計画実施報告」のご報告は以上でございます。

寺田部会長

ありがとうございます。それでは、報告事項(1)に関して、皆様からご発言をいただきたいと思っております。ご質問、ご意見等はございませんか。

京谷メンバー

包括支援センターの京谷です。一年間の実施報告を通して見せていただいた中で、今年度の記憶に残るのが、オープンカンファレンスがすごく良かったなというイメージがあります。私自身もそう思いますが、周りから、参加した人の声の中で、函館で新しいかたちのカンファレンスで安心して参加しやすい、それぞれの職種の視点からの見え方を共有できるということでは、有意義な、いいカンファレンスだったと周りから聞こえるので、ぜひ次年度も大切に続けていただきたいと思っております。

寺田部会長

川口先生、展望等ございましたら。

川口メンバー

はい、川口です。今年度は3回やったんですけども、8月を最後に止まっているんですが。昨年度、冬にやった時にインフルエンザが多発したりして会場が変わったりしたので。今年はず3回やったので、冬はまあいいかなと思っていました。そろそろ、来年度の計画を、できれば3~4回はやりたいなと思ってます。よろしく願いいたします。

寺田部会長

報告事項(1)に関しては以上にて終了し、次の議事に進めてよろしいでしょうか。それでは、報告事項(2)「センターホームページ『コラム』の掲載について」に関して、幹事から説明願います。

佐藤幹事

資料1 報告事項の(2)「センターホームページ『コラム』の掲載について」につきまして、ご報告いたします。平成29年度の第3回の大規模研修会での15職の職種紹介をセンターホームページでコラムとして掲載するという取り組みです。2月までで、15職中12職種まで掲載できております。3月中には全ての職種が掲載出来る予定です。部会メンバーの皆様にはお忙しい中ご協力いただきましてありがとうございます。なお、来年度につきましては、平成30年度の第4回大規模研修会でのシンポジストをお願い致しました老松先生、岡田先生、福德先生に「施設医・在宅医・病院医～それぞれの立場からの看取り～」と題したコラムを掲載する予定でおります。老松先生、岡田先生、福德先生にはすでにご快諾いただき、4月以降に順に掲載していく予定でおります。年に1回の大規模研修会は少しずつ市内の医療・介護関係者には浸透しつつある状況かと思いますが参加人数の制限等もあり出席できなかった方や一般市民の方にも内容を発信していければという思いもありまして、今後も大規模研修会の内容をコラムとして繋げていきたいと考えております。報告事項(2)「センターホームページ『コラム』の掲載について」のご報告は以上でございます。

寺田部会長

それでは、報告事項(2)に関して、皆様からご発言を頂きたいと思っております。ご質問、ご意見等はございませんか。よろしいでしょうか。「報告事項(2)」に関しては以上にて終了し、次の議事に進めてよろしいでしょうか。それでは、続きまして協議事項(1)「研修情報一元化と提供について」に関して、幹事から説明願います。

佐藤幹事

資料2 協議事項(1)「研修情報一元化と提供について」ご説明いたします。資料5をご覧ください。平成30年4月から平成31年2月までのセンターホームページ上で掲載した研修情報は、合計24件でした。内訳としましては、センター主催・共催のものが11件、他団体主催もしくは共催のものが13件となっております。道南在宅ケア研究会、函館市地域包括支援センター連絡協議会、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会、函館市訪問リハビリテーション連絡協議会、道南地区老人福祉施設協議会等より依頼をいただいております。資料4をご覧ください。こちらは平成29年度の掲載件数ですが、合計26件でした。平成30年度以降は、協議会に参画いただいている団体が主催している研修会に加えまして共催している研修会も追加して掲載可能としておりましたが、情報の一元化というのにはまだまだ情報が少ないと感じております。センターとしましては、さらに研修情報を提供して頂ける機関や団体等を追加してはどうかと提案いたします。追加する団体としては、まずは普段から研修会等にもご案内しております職種の方々が会員となっております、北海道老人保健施設協議会(道南地区老人保健施設事務長連絡会)、南北海道グループホーム協会、函館市ホームヘルパー連絡協議会、函館市デイサービス・訪問入浴連絡協議会、北海道栄養士会函館支部、北海道介護福祉士会 道南支部、北海道理学療法士会道南支部、北海道作業療法士会道南支部、北海道言語聴覚士会道南支部の9団体には直接ご案内をしようかと考えております。その他の機関や団体等につきましても、ご案内できればと考えておりますが、セン

ターで集約し公開できる研修情報については何かしらの規定というか、決まりを設ける必要もあり、資料6の「研修情報一元化と提供に関する規定」(案)を作成いたしました。研修会の周知と参集のため、他機関や団体が企画する研修会の開催日時や内容等が重複しないためという目的のもと、掲載できる条件を記載させていただきました。まず一つ目として、函館市内の医療・介護関係者が所属している機関・団体等が主催または共催の研修会であること、二つ目は函館市内の医療・介護関係者が対象となる研修会であること。三つ目には公益性があり、営利目的ではない研修会であること、四つ目は当センターも含め、函館市医療・介護連携推進協議会に参加している団体からの推薦がある研修会であることとしております。各団体からの推薦のもと、最終的に函館市やセンター内で検討して掲載するというイメージで考えております。ご協議頂きたい内容は、協議事項(1)「研修情報一元化と提供について」、協議会に参加していない9団体への案内を拡大したいという事と、作成した規定の内容等につきまして皆様にご協議をいただければと存じます。

寺田部会長

佐藤幹事、説明をありがとうございます。それでは、協議事項(1)「研修情報一元化と提供について」に関して、9団体への案内を拡大したいという事でしたが、それに関してはどうでしょうか。よろしいでしょうか。規定の案に関してはどうでしょうか。質問等ございますか。

川口メンバー

一つ目の、函館市内の医療・介護関係者が所属している機関、団体等が主催、または共催、例えば、私が何かをする、一応函館市に所属している、私が何かをする、この下の何かに合致した場合、OKなのか。その所属している機関や団体等が主催または共催とはどの範囲を言っているのか。

佐藤幹事

それは先生個人でということですか？

川口メンバー

私も所属するような何か団体があつて、例えば函館市以外の人も入っているとして、それに合致するような会をもし開いたときにそれを載せるのか。例えばその機関、団体というのは道南在宅ケア研究会だとか、今所属している、ここに関係している団体でなければならないのか。

佐藤幹事

ありがとうございます。今年度まではこの医療・介護連携推進協議会に参画していただいている団体様というかたちで制限させていただいていたと思いますが、次年度からはこの枠を外して考えていきたいと考えておりました。例えば、推進協議会に参画していない団体、MOPNさんとかもそうだと思います。理学療法士会さんや言語聴覚士会さんなんかもそうですがそういった会の中でこの要件に満たされる場合はセンターのホームページに掲載して

いくというかたちで拡大を図っていきたいと考えておりました。

川口メンバー

そうすると、函館市内の医療・介護関係者が所属している機関だったり。私、函館市の医療関係者じゃないですか、私が何かに所属していて、その団体が主催した場合はこの下に合致したらいいのか。

佐藤幹事

はい、そうですね。一番下のさらに例えば、道南在宅ケア研究会からの推薦ですよ、そういった会からの推薦がもらえなくてもセンターの方からの推薦ということもできますので、一度ご相談いただいてそのうえで協議できればと思っております。だいたい今、川口先生がイメージされているような研修会、団体さんに関しては掲載が可能となるかなとイメージしております。

船山メンバー

五稜郭病院の船山です。川口先生に補足して、今、秋に川口先生と一緒に医療・介護の北海道の人を集めてイベントをやろうという話をしている、こういうイベントをやるときに広報として使うことができるのかどうかということなんです。

佐藤幹事

要は函館市内にかかわらず、全国的に参加者がいらっしゃる？

船山メンバー

いや、ほとんど全道なんでしょうけど、例えば、川口先生、ACPだったり在宅だったりとその一連の流れの中で、今回函館がその会場とかやるんですよ。なので、函館市内のその介護とか医療の方に集まってほしいと思っているので、何とかその団体を使ってですね、広報したいっていう多分そういうことを川口先生おっしゃっているんだと思うんです。

佐藤幹事

大丈夫です。イメージが付きました。ありがとうございます。

寺田部会長

あとございますか。

高畑メンバー

渡島保健所さんは入っていないけれど、どうかな。函館市じゃないから。道南域はかなりね、でかいよなって思うので。

佐藤幹事

渡島保健所が主催の研修会ってことになりますでしょうかね。そうですね、もし渡島保健

所さんが、函館市内の医療・介護関係者向けの研修会っていうものであれば掲載を検討することは可能だと思います。何となくどうでしょう渡島保健所さんだと函館市内というよりも道南圏域の他の市町村の方に向けた研修会になるのでしょうか。ちょっと私もイメージがまだ湧かないんですけども。

船山メンバー

まさにちょっと今日渡島の方とその打ち合わせしてきましたですね、一応3月30日の日にそういう研修、多職種研修会やりましょうってことになったんですけども、話が今まさに佐藤幹事が言ったように函館市内の急性期病院のいわゆる支援担当者として、いわゆる函館市以外ですかね、包括だとか居宅のケアマネさんとどういようなかたちの情報の共有をし合えばうまく調整ができるのかっていうところの研修をしようって話になったんですよ。なので、もしこの団体を使って宣伝をしようとするのであれば、当然函館市内のその急性期病院の医療関係者にも伝えたいし、今そこ絞ってそういう話をしていますけども、函館市内の、例えば居宅の方に来ていただいても全然悪くないと思うので、ただ問題が、函館市の方よりも、どうしてもその福島とかですね松前、木古内とか知内とかになると若干そのケアマネさんとの調整が遠い分急性期病院で困ってるし、向こうも多分すごく困ってると思うんですけども。そういう話し合いをしようってことになっているので、そういうこともこういうのに載せると興味ある方って多分来ると思うので、いいんじゃないかなと思うんですけど駄目ですかね。

佐藤幹事

そうですね、市と協議が必要になる案件かもしれないです。内容によってはそれこそ函館市内の医療関係者にも広報したいと、そして参加を求めたいんだっていうものであればきっと大丈夫だろうとは思いますが、一応念のため検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

水越副部長

今の渡島と函館市っていうのは、今医師会も歯科医師会も含めてなんですけど、管轄地域の連携っていうのがちょっと微妙な所もあるので今言われたようにうまく行政同士で折り合いが付けば問題はないと思うんですけど、ここで良いか悪いかって判断はちょっと難しい部分もあるのかなっていう気がするんで、一度行政の方の調整が必要になってくる可能性はあると思います。

佐藤幹事

広域の連携っていうところがですね、まだこの医療・介護連携推進協議会の中には課題となっているところがございます、この辺りが少しずつ渡島さんと函館市とうちのセンターもそうだと思うんですけど、協同しながら話を進めていくことができれば、その時はですね、多分大手を振ってと言ったら変ですけど、渡島さんの研修会とか、あと渡島圏域の函館市以外の医療介護関係者に宛てた研修内容についてもというようなかたちでですね、いつかそういうご報告ができるようになるかなと考えております。

寺田部会長

あとございますか。これどうなんだろうっていうような研修がこれからも出てきたときには、センターの方に問い合わせさせていただいて判断していただくということと、またあの取り上げられなかった研修がもしあったら、こういった場でこのケースはダメだったっていうように報告していただければ、イメージが広がるかなって感じですよ。よろしくお願ひします。あとよろしいですかね。では皆さんからいただいた意見とセンターからの意見をまとめてこれからまた進めていくということでよろしくお願ひいたします。では続きまして、協議事項
(2) 平成31年度多職種連携研修計画案につきまして幹事から説明お願ひいたします。

佐藤幹事

資料2 協議事項(2) 平成31年度多職種連携研修計画(案)についてご説明いたします。資料7をご覧ください。目的別に順次説明させていただきます。(1) 相互理解の促進です。①医療関係者向け研修ですが、昨年度までの2年間は介護保険の概要についてお話をいただきましたので、今年度は次のステップのイメージで具体的な介護サービスについて、それぞれの概要や役割についてを内容として提案させていただきます。医療関係者が自分の業務と照らし合わせて興味を持って聞けるように、例えば医療系のサービスを利用する時の主治医の指示書等、提供した情報がどのように活用されているのか等のお話をさせていただけると良いかなと考えております。講師は、今年度までは包括支援センターの職員さんをお願いしておりましたので、来年度はケアマネジャーさんにご依頼したく、居宅連協さんから適任者をご推薦して頂けるとありがたいと思っております。開催月につきましては、今年度同様に同テーマ、同講師で5月、8月、2月の3回を予定したく、また開催場所につきましては、昨年に続いて二次救急医療機関を会場にして医療従事者が出席しやすい環境を作りたいと思っております。続きまして②介護関係者向け研修ですが、高齢者の医療機関への受診についてという事で、在宅や介護施設等の高齢者が医療機関へ受診する時の注意点や医療側の事情を理解していただけるような内容を提案いたします。講師は今年度まではソーシャルワーカー協会からお願い致しておりましたので、来年度は函館地域医療連携実務者協議会から適任者を推薦していただければと思っております。開催月につきましては、こちら同テーマ、同講師で5月8月2月の3回を予定したく、また開催場所につきましても、今年度同様テレシアターを予定したいと思っております。③オープンカンファレンスに関しましては、川口先生と開催病院さんと随時協働していく予定で考えております。④意見交換会ですが、今年度の計画では31年度以降取り組むこととなっておりますが、30年度の研修を振り返ってみますと、グループワーク等がそのまま多職種による意見交換の場であったと振り返っております。平成31年度、センターが「意見交換会」として単独で開催する必要性も含めて、改めて各団体さんで現在、他団体や他職種との意見交換会が実施されているのかという実情の把握とセンターに期待する役割等の希望を調査させていただきたいと思っております。その上で、必要性がありましたら、来年度後半にでも実施ということも検討できればと考えております。資料8をご覧ください。こちらの調査用紙にてこれまでに他団体や他職種との意見交換会を実施したことがあるかどうかや、実施に対する希望等を調査させていただきたいと思っております。協議会に参加されている団体さんには、部会メンバーさんを通じてそれぞれの団体の状況を調査用紙にご記入いただければと思っております。ただ、協議会に参加

されている団体に関しましては、すでに横のつながりが確立しつつあるのかなという所も感じておりますが、今回は協議会に参加されていない団体の調査も必要と考え、先ほど研修情報の拡大でも提案いたしました9団体も調査対象としたいと考えております。調査は、来年度早々に実施して数か月の中で調査内容を分析し次回の部会でご報告できればと考えております。

続きまして、(2) 連携強化です。⑤看取りについてです。1) 大規模研修会と2) の施設看取りへの支援ということで2つの研修会を企画いたしました。看取りに関しましては、センターとしましては今年度から3年間研修を実施していく方向で考えておりまして、その第1弾が今年度の大規模研修会で行いました。2回目となる来年度の大規模研修会は1回目からの流れで施設・在宅・病院とそれぞれの場所での多職種による看取りの実態を内容として考えております。今年度の医師のお話をさらに広げて多職種のかかわりという視点でシンポジウム・グループワークを実施できればと思っております。シンポジストとしては例えば、施設からは施設相談員、病院では医療ソーシャルワーカーもしくは病棟看護師等というイメージで考えておりました。在宅ではケアマネジャーか訪問看護師さんというところで考えておりました。大規模研修会については、すでに11月30日に国際ホテルで同じ会場を仮予約することができておりますので、今年度と同様グループワーク席に加えて聴講席の準備もできる予定でございます。できるだけ多くの参加者にご案内できればと思っております。参集方法につきましては、毎年協議会に参加していただいている団体を通じて参集依頼をしておりますが、今年度は、聴講席を準備できたこともありまして、センターからも直接各医療機関や介護保険事業所等にご案内いたしました。それにより、それぞれの機関や事業所内で各団体に所属している職員さんがどちらから参加申し込みをしたらいいのかと迷ってしまったり、重複していたことでの混乱が見られておりました。センター内でも受付が煩雑になってしまったということもありまして、多職種が多く混在しております医療機関や介護保険事業所は団体を通さずにセンターから一括して所属機関に向けて案内を発信できればという風に考えております。しかし、歯科医師会さん、薬剤師会さん、柔道整復師会さん、鍼灸マッサージ師連絡協議会さんに関しましては、会員となれている方が医療機関や介護保険事業所、または他団体との重複がほぼないと思われまますので、現行通り団体を通じてのご案内をお願いできればと思っております。人数の制限等もなく参集できればと思っておりますので、例えば、歯科医師会につきましては各歯科医院への案内の際に、歯科医師だけではなく勤務されている歯科衛生士さんや事務職員さんへ向けての案内も可能になるかと考えております。さらに、幅広い参加者の拡大のため栄養士会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会等には所属する各機関からの参加申し込みをお願いしたいという趣旨の案内文書を発信することで研修会の周知を図ることができればと考えております。後ほど、この大規模研修会の内容と参集方法についてご協議いただきたいと思います。続きまして、2) 施設看取りへの支援についてですが、こちらは平成31年度は看取りの中でも施設看取りの支援をセンターの事業計画の中に入れておりまして、その取り組みの一つとなっております。今年度センター職員が各介護保険施設とサービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム等を訪問させていただき、実際に行われている施設看取りの実態調査を行ってまいりました。その中で、看取りの好取組事例報告というかたちで施設職員さんを対象に研修会を開催したいというものでございます。事例発表していただく施設を選定して9月頃には開催したいと思

っております。続きまして⑥入退院支援ですが、はこだて入退院支援連携ガイド、はこだて医療介護連携サマリーそれぞれの活用促進にも繋がると期待し研修会を開催予定です。それぞれの分科会、部会と共催で行うイメージでして、入退院支援の場面でガイドとサマリー、両方の必要性が出てきますので、それぞれの研修会の際にそれぞれの活用促進も含めて実施していくイメージで考えております。⑦急変時対応です。こちらは、平成29年度に行った函館市医療介護連携、急変時対応研修会の第2弾でして、前回は介護施設等での急変時における好取組事例の報告として介護保険事業所職員や協力医療機関の医師等を対象に行いました。今年度もセンター職員が各施設を訪問して高齢者の急変時対応の実情把握をしてまいりましたので、31年度は急変時対応実務者会議の皆様と共催という形で、高齢者の急変から病院受診（救急搬送）の事例をもとに、医療・介護の双方の事情を知る機会として開催したいと考えております。この研修会開催に関しましては、急変時対応の実務者会議の中でもすでに提案させていただきまして、詳細について協議しながら来年3月頃の開催を目標にしたいと考えているところです。

次に、(3)多職種連携の専門性の向上についてです。ここは今年度、専門性の向上という表現で在宅医療と在宅介護への理解の促進という内容で記載しておりました。各団体の依頼があればセンター職員が出前講座をするという計画でございましたが、30年度はセンターの概要や役割についての出前講座がほとんどで専門職に対しての在宅医療や在宅介護の理解の促進という内容にまで至っていなかったのが事実でございます。センター内で協議いたしまして、まず目的の表記も具体的に多職種連携のという言葉を追加しまして、内容も函館市における多職種連携への理解の促進と変更をいたしました。各団体に加え各医療機関や介護保険事業所等からの依頼に応じてセンター職員が出前講座を行います。具体的な講座の内容をメニュー化して依頼していただきやすいよう工夫してみました。資料9をご覧ください。このメニューはセンターホームページにも公開して周知・ご案内することを考えております。

続きまして、(4)人材育成です。多職種連携の未経験者である市内の医療・介護系の学生やまたは指導する立場の教員等を対象にセンター主催の研修会に見学者というような形で参加していただき、函館市の医療・介護連携の実際を学んでいただくという取り組みです。来年度より市内の看護学校や専門学校等への案内を開始する予定でおります。1回の研修会に数名の参加を想定しております。以上、資料7の目的別に(1)から(4)までご説明いたしましたが、この研修計画(案)の形式の部分にレベルの表記がございます。今年度は、研修内容を企画する際に部会やセンター内でこの初級・中級・上級を意識して組み立ててまいりましたが、研修案内文書に記載する等周知して参集するというわけではなかったため、研修会終了後のアンケートに知っている内容だった等のご意見もあり研修の満足度が低かった方もごく少数と思われそうですがいらっしゃったのかなと感じております。こういった方が少しでも減りまして、研修の満足度を上げていくことができればということで、来年度は研修案内を受け取った側が多職種連携に携わってから何年目くらいの方を想定した研修会なのか、レベルを把握して参加可否を決めやすいように案内文書に一文追加してはどうかと思っております。ただし、想定しているレベル以外の方の参加を制限するわけではないということの表現の方法等に気を付けて発信していきたいと思っております。長くなりましたが、協議事項(2)平成31年度多職種連携研修計画(案)についての説明は以上になります。

寺田部会長

はい、ありがとうございます。それでは、協議事項(2)平成31年度多職種連携研修計画(案)につきまして、アからカまでですね一つずつ皆さんと協議していければと思いますが、まず一つ目のアの医療介護関係者向け研修についてですけれども、研修の内容と講師の選定、開催時期等につきまして、皆様からご発言等いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。資料7の(1)①②③の部分あたりとかですね。特にご意見よろしいですか、この内容でよろしかったでしょうかね。はい、では次の事項について進めさせていただきますが、次はイですね意見交換会についてですけれども、資料8の調査の実施につきまして、また調査方法と対象団体に関しまして皆さんからご意見いただければと思います。この取り組みに関しては今年度初めて行う取り組みということなので、多分皆さんもイメージ付きにくい部分もあるかと思うんですけれども、何かご意見ありましたらお願ひいたします。どうですか、何かイメージがどう活用していいのかが分からないとかありますか。こういう活用がこういう工夫しないとちょっと難しいのかなとか、逆にこう活用されるであろうというふうに予想されるか、いかがでしょうか。益井先生お願ひいたします。

益井メンバー

函鍼連の益井です。これ多職種主催かいわゆる団体という大きなきちんとした枠組みの中でのこういう意見交換会に対する調査ということだと思っんですが、時々よくやるのが、色々な職種がごちゃ混ぜで入っている普段繋がりのあるグループがある程度知り合いを呼んできてとか、何団体かに入っている人達が集まっての意見交換会っていうのはやっていたりするんですね。そういうのはやはりこういう所には含まれず、例えば歯科医師会主催、そこに薬剤師会との意見交換会というようなかたちじゃないとやはり共催に載ってこない感じでしょうかね。

佐藤幹事

ありがとうございます。多職種による意見交換というふうに思われる内容につきましては、どんどん記載していただいて構いません。

益井メンバー

例えば、歯科医師会の団体というか有志が主催して、そこに例えば薬剤師、函鍼連、柔整師というような会員が来て意見交換会をしましたというようなかたちでもここに載ってきてもいいような感じかな。

佐藤幹事

大丈夫です。この調査の目的はですね、私達センターとしてもいろんな団体さんで意見交換会といいますか、そういう場を設定されて実施されているというのを把握しているところもあるんですね。ただ、まだまだきつと知らない場面で私達には情報が入ってこないところで、もっと皆さん活発に行われているところもあるんじゃないかと感じる場所もありまして、私達の方でもっと知り得ていない、そういった情報をどんどん知っていただければという

ところが一つと、もうそれぞれの団体さん毎にそういった会を開いていくことができているので、センターがあえてそこに介入する必要があるのかどうかというところも判断させていただき情報としてですね、調査させていただきたいと考えているところですので何か思い当たるそういった会がございましたら、どんどん記載していただければセンターの方で色々考えて整理していけたらと思っております。

益井メンバー

ありがとうございます。もう一つだけ。若干これを聞くのは心苦しいところではあるんですけど、飲み会でですね、皆で意見交換会、その辺のところはどうなんでしょうか。

佐藤幹事

はい、それも含めていただけていいです。ただできればそれが飲み会の場面だったのか、はたまたその、何て言うんでしょう、ノンアルコールでの場の会だったのかってところが、明確に分かると私達もちょっと区分けしやすいといえますか、整理しやすいのかなと感じるところです。

益井メンバー

はい、分かりましたありがとうございます。

寺田部会長

他にございませんか。よろしいですかね、書式について、いつ頃を目安にやっていくかというところですが。

佐藤幹事

年度明けて4月頃にはと思っております。この内容を受け取った皆様が、ご理解しにくいとか、もし何か後からこういったところを修正した方がいいんじゃないだろうかというご意見ありましたら、後ほどでも構いませんのでセンターの方までご一報いただければと思います。よろしく願いいたします。

船山メンバー

どれくらいまで振り返って。

佐藤幹事

思いつく限りで大丈夫です。本当にもし大変なようでしたら記憶の限りで構わないです。色々資料を探して掘り起こしてまでも必要ありませんので、例えば頻繁にやってらっしゃるようでしたら毎年やってますよとか、過去に何回くらいやっていたというような記載でも構わないと思います。よくやってらっしゃる包括さんと薬剤師会さんとか、あと訪リハさんと居宅連協さんとか何か色んな団体さんですね、そういったコラボをした意見交換会っていう表現ではないかと思いますが、同じような目的でされてらっしゃる会もあるかと思しますので、是非ご協力お願いしたいと思います。

寺田部会長

あとよろしいでしょうか。はい、では意見交換会に関する調査に関しては以上にさせていただきます。次ですね、ウの大規模研修会の内容に関しまして実際に皆様からご意見等いただきたいと思うんですけれども、まず研修会の内容とシンポジストの選定につきまして皆様からご意見いただければと思います。いかがでしょうか。テーマがこれですねそれぞれの場所での多職種による看取りの実際ということで。はい、京谷さんお願いします。

京谷メンバー

包括京谷です。先ほど説明の中で、このシンポジストとして上げられている職種の中で病棟看護師さんや訪問看護師さんというところの説明があったと思うんですけれども、すごくいいなと思ってすごく賛成だなと思って聞いていました。在宅の方の立場で言うと、一番身近に接したりとかってところでは看護師さんって場面がすごく多いのかなって思ったときに、やっぱり在宅にいると病棟の看護師さんの価値観ですとか思いですとか、あと大事にしているところとかがやっぱり感じにくい、理解しにくいところがあって、そういう機会を通して触れることができることで在宅側でも理解が深まったりだとか、苦手意識がちょっと低くなったりだとかっていうところでの効果もあるかなと思ったので、この病棟看護師さん訪問看護師さんっていう所のシンポジストさん。特に病棟看護師さんっていうところはすごくいいなと思って、是非こういう機会が実現すればいいなと思って説明聞かせてもらいました。以上です。

寺田部会長

ありがとうございます。他に何かご意見等ございますか。よろしいでしょうか。大規模研修に関しましては、このように進めさせていただきたいと思います。では次に進みまして、協議事項の(2)エの大規模研修会の参集方法に関してです。医療機関、介護保険事業所に関しては団体を通さずにセンターから一括発信して各機関から多職種が参加申し込みをする。そして歯科医師会、薬剤師会、柔整、函館鍼灸マッサージ師連絡協議会につきましては例年通り各団体を通じて会員に向けて参集依頼をする。ただし、歯科医師会等は歯科衛生士さん含め会員となっている歯科医院に所属している職員さんも対象とする。また、その他栄養士会、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士会については所属する機関等からの申し込みをしていただくように会員に周知依頼をするということにつきまして、皆様からご発言をいただきたいと思います。ちょっとややこしい話になると思うんですけれども、何か疑問な点とかありましたらよろしくお願いいたします。歯科医師会に関して衛生士と何か先生から何かありますか。

川村メンバー

歯科医師会の川村です。歯科衛生士とか事務職員にですね、流石にもう声を掛けていきたいと思うんですけれど、これ函館歯科医師会といますか、七飯町ですとか北斗市もいますので、そちらの案内は出さないってことでよろしいんでしょうかね。普通道南なのでちょっと答えづらいかなとは思いますが、やっぱり市内でしょうか。

佐藤幹事

はい、ありがとうございます。ちょっと答えにくいのは確かですけど、一応基本的にはこの函館市内の医療介護関係者への支援ということが一応センターには位置付けられている所でございます、そこが先ほどもお話し出ておりましたように広域に拡大した暁には本当に大手を振って市内に関わらずお声掛けできるかなと思っております。一応これまでもですね、他の団体さんで道南地域が会員さんというふうになってらっしゃる団体さんにもですね、函館市内の事業所さんにお声掛けくださいってお願いはさせていただいております。ただ、申し込みしていただく方も、中には他の函館市外の事業所さんや職員の方から申し込みいただいていることも過去にはございまして、その際枠がある限りはですね、お断りせずにお受けしているという状況ではございます。ただ、どうしても枠に制限がある場合は函館市内の医療・介護関係者の方を優先させていただくという状況になっていくかと考えております。

寺田部会長

あとよろしいでしょうか。他にございますか。はいお願いします。

岩坂メンバー

すいません、北海道医療ソーシャルワーカー協会南支部の岩坂です。本日は酒本の代理で出席させていただいております。医師会ですとか看護協会、MSW協会等に関しては団体通さずにセンターから直接医療機関なり介護施設へということなんですけれども、そういう団体の方の案内は出さないっていうかたちになりますでしょうか。例えば当協会ですと在宅会員がいたりだとか、あと医療機関等に勤めてなくてちょっと別のかたちの機関に勤めていたりですとか、教育機関に勤めてらっしゃる方とかいらっしゃるんですけれども、協会の方にもし案内がくればうちの協会だと協会の伝達方法があるのでそこに載せてご案内を出すっていうことはできるんですがいかがでしょうか。

佐藤幹事

ご質問ありがとうございます。これはあくまでもセンターとしての提案というかたちでお話させていただいておりますので、例えば団体さんの方でセンターからの一括の配信ではなく、団体から今まで通り発信したいというお声がありましたら、それはそういうかたちで対応させていただこうと思っております。ただ実際今年度ですね、医療機関さんは色んな団体から案内が行って混乱が生じているという状況が確認されたところもありますので、その辺また近くなりましたらソーシャルワーカー協会さんと協議しながらですね、どういった参集方法にしていくかということを決定させていただければと思います。よろしいでしょうか。

寺田部会長

他にございますか。一応今年度306名ということで、会場確認なんですけど、何名まででしたっけ。

佐藤幹事

多分グループワーク席を何席設けるかというところで最大参集人数というのが変わってくるかと思うんですが、今年度の会場設定でいくと340くらいだったと思います。なので、定員オーバーということには今年度の研修会はなっておりません。360席ご用意できる状況ではございました。

寺田部会長

案内がより広がって傍聴席で確保していければって感じになりますよね。その他なにかよろしいでしょうか。

高畑メンバー

大規模研修のことでしたけれど、アンケートを見ても参加型の研修ですごく満足度が高いですね。皆さんを見ているとすごく話し足りないとか、時間が全然足りなかったというところで、時間配分をもう少し考えてもいいのかなって、バランスですね。シンポジウムもちょっと短くしてお話が大きくとれる、そういうふうに考えても良いのかなとちょっと感じておりました。

佐藤幹事

ありがとうございます。確かに皆さんグループワーク楽しみに参加されていらっしゃる方もいて、本当に短い時間になってしまって申し訳ないなと毎年感じるところです。次年度またコアメンバーの皆様とその辺り詰めていくかたちになるかと思しますので、その時に今のご意見を参考にさせていただきながら、またスケジュールを考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

寺田部会長

他、よろしいでしょうか。ではいただいた意見を参考にしてまた進めさせていただきたいと思っております。続きましてエの多職種連携の専門性の向上についてなんですけれども、内容と資料9の出前講座メニュー等につきまして、皆様からご意見をいただければと思っております。よろしく申し上げます。

水越副部会長

確認なんですけど、この出前講座というのは一回に行う場合に例えば①と②をくっつけて行うとかそういうかたちでやることも可能なんじゃないかな。要は30分だけではなくて両方で90分くらいをしていただくとか、そういうことは可能なんですか。

佐藤幹事

ご質問ありがとうございます。この出前講座に関して必ず一講座一内容というふうには区切っておりませんので、ご希望に合わせてその辺りカスタマイズと言ったら変ですけど、いのように調整していければなと思っております。ありがとうございます。

水越副部会長

ありがとうございます。というのもその団体によってはですね研修というかたちでその研修認定っていうシールを発行しているものもあるものですから、薬剤師会もそうなんですけど、申請をするとその研修であれば認定として認めますよとなると、薬剤師の研修として単位が貰えるわけですよ。そういうのも多分あるとモチベーションも含めて、あと人数も来ていただけるのではというところです。

寺田部会長

他にありますか。

高畑メンバー

これは出前講座として受け身な感じで、依頼があれば行きますよ、だけれども、例えば町会みたいところで出前講座した方が良いんじゃないかとか、逆に積極的に行くっていう感じでもお考えでしょうか。

佐藤幹事

ご質問ありがとうございます。実はこの資料9の出前講座の部分はこちらの方は医療・介護関係者の皆様に向けた出前講座のメニューとなっております。一般市民の方に向けては、また別のかたちで作成をしていこうと考えておまして、実際町会さんとか高齢者大学、老人福祉センターの方で、毎年お伺いさせていただいて出前講座を開催させていただいているという状況でございます。こちらの多職種研修部会の方でのご報告というかたちには至っていませんが、実は一般市民の方向けの出前講座というものをさせていただいています。あと、今年度も、包括支援センターさんにもご協力いただきまして、例えば包括さんの健康教室の前に少しだけお話しさせていただく時間をいただいたりとか、地域ケア会議のお声かけいただいた時にちょっとお時間いただいたりとか、そのような形で一般市民の方に向けたセンターの周知であったり、色んな医療・介護関係の部分に対する発信というものも行っておりまして今後も継続していきたいと考えております。ありがとうございます。

寺田部会長

他にあとございますか。ではよろしいでしょうか。ではエの出前講座に関しましてはこのように進めさせていただきたいと思います。

次ですが、オの人材育成についてです。資料7の(4)の部分になると思いますが、皆様からご意見等ございますか。これも今年度からの試みですね。何かイメージが付きにくい部分等ありましたら、ご質問お願いします。

川村メンバー

最後の聞き漏らしたかもしれないんですけども、内容ですとかそれから時間とか曜日ですよね、そういったところを教えていただければと思います。

佐藤幹事

ありがとうございます。人材育成と言うと医療・介護関係者の皆様に向けた人材育成とい

うふうにもしかしたら思われがちかとは思いますが、こちらは次世代の医療・介護関係者に向けた人材育成と捉えていただければと思っております。医療・介護のそれぞれの学校に通ってらっしゃる学生さんを対象にしていきたいと思っております。こちらの方はあえてその学生さんに向けた研修会を企画するのではなく、現在センターの方で主催して行っております医療・介護関係者向けの研修会、大規模研修会であったりとか、センター研修会にこんなかたちで函館市内の医療・介護関係者の方々が働いているんですよとか、連携を図っているんですよというものを学生の内から知る機会を持っていただければというイメージで企画しておりました。なので、時間帯日程に関しましては、この医療・介護関係者向けのそれぞれの研修会の日程と時間帯というかたちになっていく予定でおります。よろしいでしょうか。

山本メンバー

医療・介護系の学校というのが、何というか国家資格が取得できるようなそういうカリキュラムが組まれている学校なのか、どこまでのものなのかっていうのがちょっとイメージが付かなかった部分がありまして、医療・介護というと資格だけじゃない分野の仕事もされている方もいると思うので、どこまでのものなのかなっていう部分でちょっとお聞ききしたかったです。

佐藤幹事

ありがとうございます。センターの方でイメージしていたのは、あくまでもイメージの段階なんですけども、例えば看護学生さん、臨床福祉専門学校の生徒さん、あとこれから医師会病院で運営していく予定であるリハビリの学校であったりとか、そういった市内の医療と介護に携わる学校に通ってらっしゃる学生さんというイメージでおりました。ただ、私達の情報ではまだまだ漏れている学校等もあるかもしれませんので、こういった所もありますよっていう情報がありましたら是非お知らせいただければ、ご案内の方を検討していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

山本メンバー

ありがとうございます。医療系の学校っていうのはもう本当看護学校しか思いつかなかったんで、リハビリの学校が出来るとっていうのは伺っておりましたけれども、按摩さんも国立視力障害センターとか資格が取れるところでは学生に当たるんですかね。

益井メンバー

基本的にちょっと前の質問になるんですけど、こういう学生さんへセンターから案内を出す、こういう研修会がありますよっていうことでセンターからそういう学生さんや教員等に出すってことになるんですね。

佐藤幹事

はい、そうですね。本当に今漠然とイメージしているのは、まず学校の方へアプローチさせていただきたいと思っております。そこで学校から発信をしていただくと、その時の参加人

数等も学校の方と協議させていただいて、その人数に割り当てて参加者を選んでいただくというようなイメージで考えておりました。

益井メンバー

分かりました。そうすると今山本さんから出ていた、皆さんが知らない国立の視力障害センターには鍼灸マッサージの資格を取ろうとしてやっている視力に障害がある学生さん、教員沢山いますから、そういう所こういう所もありますよってということで、他の団体さんでも、実はこういう所あるんですよっていうこともあればセンターの方に案内お願いしますというかたちで報告するという感じでよろしいですか。

佐藤幹事

是非ですね、まだまだ私達情報不足なところもあるかと思いますので、皆さんからいただければ大変助かります。よろしくお願いします。

益井メンバー

ありがとうございます。

京谷メンバー

包括京谷です。基本的にその医療と介護の学生さんってところでは、包括支援センターにも実習生さんってたまに来ることが年間通してありまして、これの中で今含まれてなかった学校さんとしては、教育大学さんですね。社会福祉士の資格がとれるコースがあるんです。そこから実習に来たりですとか、包括の研修会に学生さんが参加して下さったりってこともありましたので、その卒業生さんは医療機関さんの方に就職されている方もいらっしやっただので、早い段階からの人材育成というところでは教育大のそのコースも案内の一つかなと思うのと、あと未来大学さんもセンターの事業に先生と一緒に参加して下さったこともありましたので、そういった機関も一つかなと思いました。以上です。

佐藤幹事

ありがとうございます。多分この他にも大妻高校であったりとか、大谷短期大学とか、まだまだ出てくるかと思います。そういった情報を皆さんからどんどん寄せていただきますと、協議しながら今回はどこに案内しようかというふうなかたちで検討していけますので、どんどんお寄せいただければと思います。ありがとうございます。

高畑メンバー

そういう意味では枠が数名っていうのが、もう少しは呼んであげてもいいのかなって思いました。

佐藤幹事

ありがとうございます。そのときですね、参加者の状況に応じて、枠の拡大というところはどんどん検討していければなと思います。ありがとうございます。

寺田部会長

他にございますか。よろしいでしょうか。今のアからカの部分含め、あと全体を通しまして皆様からご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。では次回の部会につきまして運営担当の幹事から説明をお願いいたします。

佐藤幹事

次回の部会は、随時改めて日程等を各メンバーの方々にお伺いして開催しようと考えております、ご了承をお願いいたします。

寺田部会長

他に皆様から何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。はい、では全ての議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

栗田医療・介護連携担当

寺田部会長、どうもありがとうございました。それでは以上を持ちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修作業部会の第9回会議を終了いたします。皆様お疲れ様でした。